

## 2022年度永年勤続25年表彰について

2022年10月14日  
公益財団法人鉄道総合技術研究所

公益財団法人鉄道総合技術研究所（以下、鉄道総研）は、10月14日に、東京都立川市において、永年勤続25年の表彰式を、新型コロナウイルス感染症対策を実施の上、下記のとおり開催しましたので、お知らせいたします。

### 記

1. 日 時 2022年10月14日（金） 11:00～12:00
2. 場 所 パレスホテル立川（東京都立川市）
3. 受賞者 9名

渡辺郁夫理事長が表彰式で受賞者に表彰状を手渡した後、永年勤続の労をねぎらうとともに、今後の活躍を期待するとのあいさつがありました。理事長のあいさつを受け、受賞者を代表して総務部計量管理課長 八木毅が答辞を述べました。



表彰状を手渡す渡辺理事長と受け取る受賞者

## 【理事長あいさつ要約】

永年勤続25年表彰の受賞おめでとうございます。本日は日本で鉄道が開業してから150年となる記念すべき日で、このような日に皆さんの永年勤続25年表彰のお祝いできることを大変うれしく思います。

皆さんが鉄道総研に入社した1997年度は、日本の鉄道では北陸新幹線（高崎－長野間）の開業、JR東海の株式上場などのイベントがあった年でありました。

鉄道総研では、超電導リニアの山梨実験線での走行試験やGCTプロジェクトを開始し、また、コロナ禍においても出向を継続している唯一の海外の組織であるUICに加盟した年でもあります。

このような時期に、皆さんは鉄道総研に入社され、その後25年間、研究開発をはじめとする業務に精励され、鉄道総研の活動を支え、また、多くの成果を挙げてこられました。これまでの皆さんのご尽力に敬意を表するとともに、感謝いたします。そして、受賞者の皆さんをいろいろな形で支えてこられたご家族の方々にも感謝いたします。

さて、現在、鉄道事業を取り巻く環境は、新型コロナウイルス感染症の影響で大きく変化し、厳しい状況となっています。また、鉄道の自然災害に対する強靱化、鉄道のオペレーションやメンテナンスの省人化、省力化や、コストダウン、そして鉄道のカーボンニュートラルなど、多くの課題があり、鉄道総研はこれら課題解決のための活動を推進していかなければなりません。皆さんには、その牽引役として、それぞれの立場で、引き続きご活躍いただきたいと思います。今、鉄道を取り巻く環境は大きく、急速に変化しています。こんな時こそ、今が変えるチャンス、新たな分野に挑戦するチャンスと前向きに捉え、これからの業務に、元気に取り組んでいってほしいと思います。

皆さんのこれからの活躍とご健勝を祈念して私のお祝いのあいさつと致します。



あいさつする渡辺理事長

## 【受賞者代表答辞要約】

本日は、私ども9名に永年勤続25年表彰を賜り、誠にありがとうございました。本日は、日本に鉄道が開業し、150年となる記念すべき日です。このような日に、表彰をいただいたことを大変嬉しく思います。この25年の間、鉄道総研は、鉄道の安全性、信頼性、利便性、快適性の向上に貢献してきました。中でも私どもは、電車線路設備の地震対策、燃料電池車両、駆動システム、斜面防災、鉄道用材料、空気流の数値計算、車両の強度等に関する研究開発、知的財産に係わる業務、鉄道技術推進センターでの運營業務等に従事してまいりました。また、国内他機関への出向、海外派遣等を通じて技術の習得や鉄道総研のプレゼンス向上に努めてまいりました。私どものしてきたことが、鉄道の安全・安定輸送や鉄道総研の運営に、いくばくかの貢献をなし得てきたのであれば、大きな喜びであり、誇りでもあります。

一方、日本の社会では、新型コロナウイルス感染症が変異株の出現と再拡大を繰り返しており、収束の時期は見通せない状況にあります。鉄道需要が減少し、テレワークの普及などの社会一般の行動変容により、鉄道を取り巻く環境は急激に変化し、過去に類を見ない厳しい状況にあることに加えて、大規模な自然災害の激甚化が進んでいます。また、2050年カーボンニュートラルの実現に向けた具体的な取組も求められています。これらの課題解決に向けた革新的な技術の創出は、公益財団法人としての鉄道総研の責務であります。鉄道界や社会からの負託に応えるべく、自然災害に対する強靱化をはじめとする安全性の向上を最優先の課題としつつ、業務の無人化、省人化、省力化等による鉄道の生産性向上に加え、デジタル技術の積極的な活用や脱炭素化にも取り組み、鉄道技術の最先端を担う存在であり続ける必要があります。さらに、災害や事故の原因究明や対策提案は、鉄道全般に及ぶ深い知見を蓄積し、技術的良識に基づく中立的な活動を行う鉄道総研ならではの、重要な社会的役割です。

鉄道総研では、基本計画「RESEARCH 2025」の3年目に入り、折り返しの年となりました。私どもは、これまで積み上げてきた個々の専門性と、分野を横断した総合力を発揮し、既存の手法にとらわれることなく柔軟に業務に取り組んでゆく所存です。鉄道総研の先鋭なる技術を世界に発信するとともにリードする存在であり続けるよう、これからも精進してまいります。

本日の永年勤続25年表彰を機に、私どもに課せられた使命を今一度、肝に銘じ、鉄道総研の一層の発展と社会への貢献に向けて、今後とも業務に精励することを誓い、お礼の言葉とさせていただきます。



答辞を述べる八木課長